

中村先生のご退職にあたって

化学者と穿孔紙テープと情報処理教育

中村先生は理学部で学位を取得された化学の研究者でした。分子化学の研究ではコンピュータが不可欠なため、初期からのユーザで7列の穴のある穿孔紙テープ（ASCII です！）をそのまま読める特技？をお持ちのようでした。

1979年に本学に入職されてから、情報科学センターでセンター員（6年）、教育指導室長（4年）、運営委員会委員長（2年）、センター長（6年）、eキャンパス推進委員（3.5年）など、本学の情報処理教育を初期から牽引なさってきました。ご経験を活かし利用者の視点から情報科学センター運営に尽力されただけでなく、法学部や文学部など基礎的な情報リテラシーのための演習科目を欠く学部も含めた全学的な演習科目を事実上情報科学センターが設置することを実現されました。中村先生（と小島先生）の情報処理教育への熱意がなければ実現しなかったことと思います。

教養教育の大改革

中村先生は商学部の商品検査論など商品学関係の科目だけでなく化学など教養科目も担当されていました。教養科目は各学部所属の教養担当の教員がその学部向けに開講していたのです。このため、学部によって充実度が大きく異なっていたので、1994年からは全学対象に教養科目を開講する制度に改革しました。ここでも、専門も教養もよく分かったうえで現実を前進させる中村先生の良心が発揮されたと思います（教養の全学化は他大学に先行）。

二号館地下実験室

それらの原動力となったのが、中村先生の温厚で粘り強く配慮深いお人柄と、教育・研究について自由な議論の場となった二号館の地下実験室の存在でした。本来、化学実験と商品検査の準備室でしたが、自然科学系の教員がコーヒーめあてに集う空間となって研究環境改善の原動力となっていきました（実験器具・消耗品費・アシスタント・学会誌などどれをとっても研究を継続するのに支障が多かった専修大学に少しずつ風穴を開けていきました）。

本来の大学教員のあり方を常に考えさせる空間でしたので、2011年に閉鎖されて以降も各学部の自然科学の教員らに伝承されている地下実験室の理念？は生き続けていくものと思われまます。その中心にいたのが中村先生でした。

商学部改革

商学部は教授でないと大学院担当ができないなど体質が古く、科目名も銀行論とか倉庫論とか旧態依然でした。商品学の大家であった故吉田先生を中心にカリキュラム改革のための長期構想委員会が設置され、2000年からのセメスタ制をめざしました（基礎的科目は週2回授業、必修をおかず選択必修を充実、コース制実現等多くの改革を実現）。

中村先生はゼミ生を食品メーカーに就職させるなど商品検査論や商品学の専門教育で実績をあげていましたが、マーケティング系科目充実のためにそこに固執せずセメスタ制での充実した教育に賛同・尽力なさいました（実験に基づく商品検査論という実証的伝統はもうありません。おそらく心残りの一つと推察されます）。

ネットワーク情報学部へ

2001年から、中村先生は本学部に移りました（形式上は再審査・新規採用扱いです）。コンテンツデザインコースを担当され、回答のないたくさん課題に直面したことと思います。ネットブームで新生の半数がCDコース志望なのにその教員は2-3名しかいない状態で、一番苦勞なされたのが中村先生です。CG検定だけでなく動画の普及を早くから見越してフラッシュ教育を徹底したりmayaも導入するなど不十分な環境下で御苦勞なされたことと思います。2004年以降CDコースのスタッフを充実させていったのも中村先生の功績です（本誌17号座談会参照）。

学部長として

そのCDコースは、たとえば紙でモックアップを制作し通常なら相互にレビューするところをスペースがないため採点后ただちに壊して破棄するというように、制作系として不十分な状態でした。技術者教育面でも同様でした。

学部長に選出された中村先生はこの状態の打開に腐心され、各方面を説得して一号館のシステム部跡を本学部専用のスペースとして活用することを実現しました。学部専用のサーバーもスペースもない情報系学部として不十分な状態の解消に尽力されたのです。1-2年次の徹底した演習とアクティブラーニングを核とした本学部の特徴がようやく形となってきたのもこのころでした。

その後3コース制の問題点を何とかしようと、歴代教務委員長を中心に8プログラム制に移行します。中村先生の意思ではありませんでしたが、学部内の意見を尊重して改革を後押しされた態度には本当に頭が下がる思いでした。

英語教育

オレゴン大学留学後、情報系では不可欠なのに本学部の弱点となっていた英語教育の必要性を訴え、自ら「ネットワークイングリッシュ」など専門科目としての英語科目をご担当なさいました。国際交流センター委員としても6年間ご活躍され、最後まで学生の教育に様々の面から配慮を怠りませんでした。

大学改革の重鎮

中村先生の、漸進的で実行可能な案を常に示し教員集団を取りまとめいろいろな根回しをして少しでも大学をよくしていく努力、本当にこれによって助けられてきたのが本学部であり本学です。形は変わりますがご退職後も本学部にご指導ご鞭撻賜れることを願ってやみません。

ネットワーク情報学部長 江原 淳